

米国ベイエリアにおける連携ネットワークと今後の活動

徳島大学産学官連携推進部

客員教授 兼 平 重 和
知財発掘アソシエイト 大 井 文 香
技術移転アソシエイト 嵯峨山 和 美

1. Why Silicon Valley ?

サンフランシスコ湾を囲む、サンフランシスコとその周辺地域(シリコンバレーやバークレーなど)は一般にベイエリアと呼ばれていて、米国西海岸屈指の産業集積地・研究開発拠点となっています。この地域には、スタンフォード大学やカリフォルニア大学バークレー校、サンフランシスコ校などの超有名大学が存在し、数十年に及ぶ産学連携の歴史を誇っています。旧くはヒューレットパッカート、最近ではヤフーやグーグルなどはスタンフォード大学発のベンチャー企業であり、その発展に大学の果たした役割は大きいものがあります。このような背景もあって、ベイエリアには特に進取の気風に富んだ企業が多数集積しており、大学を中心に積極的な研究開発と事業展開が進められています。

このような地域の中核となっているシリコンバレーに、徳島大学の米国拠点を設けることによって、ベイエリア、さらには米国全域の企業との連携を図ることができると期待されます。西海岸に位置するベイエリアは、日系の住民も多く、日本からの移動も比較的容易で、活動がしやすいという地理的優位性もあります。さらに、この地域には、我が国の大学等のサテライトが数多く設けられており、それらの機関の間にしっかりしたネットワークが張られていますので、いろいろな情報を得やすく、連携を図るのに有利な地域といえます。米国は非常に広大で、51もの州があります。カリフォルニアだけでもほぼ日本と同じ面積がある中で、このような事情から、産学連携に係る徳島大学の米国拠点をシリコンバレーに設置しました。

2. ベイエリアにおけるネットワーク

ベイエリアには、日本の10大学のサテライトと日本学術振興会(JSPS)研究連絡センターが設けられています。2004年8月、これらの機関によって、サンフランシスコ・ベイエリア大学間連携ネットワーク(JUNBA)が結成され、積極的な情報交換が行われています。

特に、年1回開催される大会には、日本からも文部科学省の課長・審議官や複数大学の学長などが出席して熱心な意見交換が行われています。徳島大学も、平成21年秋に準会員としてJUNBAに入会し、平成22年1月に開催されたJUNBA大会に参加しました。

ベイエリアには上述の通り日系の住民も多く、日系人の研究開発・事業化をサポートする複数のネットワークが存在しています。例えば、「Silicon Valley Japanese Entrepreneur Network」(SVJEN)はシリコンバレーの日系起業家たちが2002年春に結成した組織です。起業家、起業を考えている人、起業のサポーターをつなぐネットワークとして、起業支援のイベントや情報提供、相談対応等の活動を行っています。「KEIZAI SOCIETY」はベイエリアにおいてビジネスを行っている日米関係者のネットワーク組織です。2カ月に1回程度開催されるフォーラムには、多数の日米関係者が参加して熱心な意見交換を行



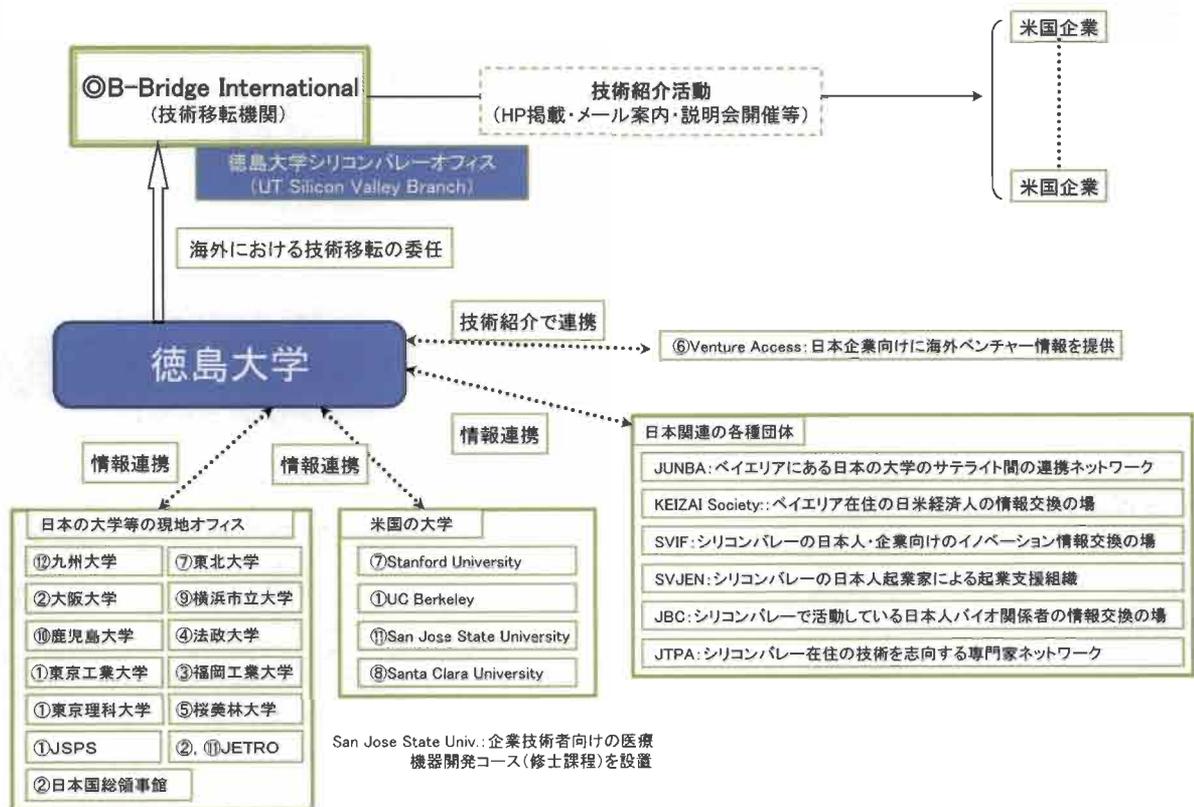
▲ ベイエリアに設置された関係機関の位置
※丸数字に対応する機関名は次ページの図参照

米国バイエリアにおける連携ネットワークと今後の活動

うなど、日米ビジネスマンの架け橋として重要な役割を果たしています。「Japan Bio Community」(JBC)は、シリコンバレーでバイオベンチャーに携わる仲間が、世界に向けてボーダーレスコミュニティを目指して設立した組織です。バイオサイエンス、バイオビジネス、ベンチャー就職情報、最近のトピックス等の情報をオンタイムで交換する場を提供し、ホットトピックに関する座談会も開催しています。

さらに、日本の発展に少しでも貢献したいという熱い気持ちを持った起業家やビジネスマン、技術者がひしめいています。例えば、B-Bridge International社長の榎本博之氏は、「日本の研究技術の素晴らしさを世界に知らしめ、日本産業の国際化や活性化を促して行きたい」として、日本の大学・企業の技術を世界で紹介するビジネスを行っています。一方、Trans Pacific Ventures社長の安藤茂彌氏は、米国などのベンチャー企業の情報を日本の企業に紹介して、両者の連携を促進するビジネスを行っています。同氏は、ダイヤモンド社のビジネス情報サイト「ダイヤモンドオンライン」の人気コラムニストとしても活躍しており、日本応援団の一人として、米国から見た日本について忌憚のない意見を紹介しています。

徳島大学では、これまでの活動を通じて、これらの組織・人々とのパイプを構築して参りました。今後は、シリコンバレーに開設した米国拠点を目場に、これらのパイプを有効に活用することによって、効果的な産学連携につなげたいと考えています。



[注] 図中の番号は、地図上の番号に一致する。

▲ バイエリアにおいて構築した主なネットワーク

[略称の正式名]

- ・ JUNBA : Japanese University Network in the Bay Area
- ・ S V I F : Silicon Valley Innovation Forum
- ・ SVJEN : Silicon Valley Japanese Entrepreneur Network
- ・ J B C : Japan Bio Community
- ・ J T P A : Japanese Technology Professionals Association
- ・ AUTM : Association of University Technology Managers
- ・ J S P S : Japan Society for the Promotion of Science (日本学術振興会)
- ・ JETRO : Japan External Trade Organization (日本貿易振興機構)

米国バイエリアにおける連携ネットワークと今後の活動

3. これまでの活動状況

昨年1月以来、産学官連携推進部のスタッフが何度かバイエリアを訪問し、いろいろな機関と意見交換を行い、パイプを構築してきました。その結果、前述のように、幅広いネットワークを構築することができました。また、B-Bridge Internationalとは、技術移転に関して包括的な連携を行うこととなり、同社内に徳島大学の米国拠点を設置する運びとなりました。

昨年10月には、産学官連携推進部のスタッフ1名(嵯峨山和美 技術移転アソシエイト)がB-Bridge Internationalに1ヶ月間滞在し、米国における技術移転について実務研修を受けました。研修では、先ず、米国における産学連携の現状や留意すべき事項についての説明を受講。その後、下記の事項を中心に、具体的な案件紹介方法について実例を基にon-the-job trainingを受けました。

- 米国企業が関心を集めるようなフライヤ(説明資料)の作り方
- 連携候補企業の見つけ方
- 連携候補企業へのアプローチ方法
- 連携候補企業との面談の進め方

その成果が実って、まだ試行段階ではありますが、既に、技術紹介案件の一部について、英文フライヤを作成し、B-Bridgeが開設している技術移転Webサイトに掲載しています。

4. 「徳島大学シリコンバレーオフィス」を活用した今後の計画

今後は、米国拠点である「徳島大学シリコンバレーオフィス」を足場に、米国における産学連携活動、特に米国企業への技術移転活動を積極的に展開することとしています。平成23年度は、先ず、B-Bridge Internationalと連携して次のような活動を行う計画です。

■ 技術紹介案件のWeb紹介

技術紹介案件の英文フライヤを拡充し、B-Bridgeが開設している技術移転Webサイトに掲載する。

■ 米国企業へのダイレクトマーケティング

技術紹介案件のうち、特に米国企業が注目すると期待される案件について、e-mail等の手段を用いて、企業へのダイレクトマーケティングを行う。

■ 研究者による技術発表

シリコンバレーにおいて、企業向けの技術セミナーを開催し、徳島大学研究者による発表及び米国企業との接触の場を設ける。

研究者による技術発表については、立命館大学が本年3月3日、シリコンバレーにおいて技術発表会を開催しました。徳島大学からも産学官連携推進部のスタッフが参加して、開催の様子を調査してきましたので、本学研究者の技術発表は、その調査結果を踏まえ、より有意義な発表となるよう企画したいと考えています。

海外企業との連携においては、英文契約の締結は不可欠となりますが、徳島大学では英文契約書はほとんど整備されていないのが実情です。このため、弁護士等の専門家の協力を得て、産学連携において必要と考えられる英文契約書類の様式(秘密保持契約、試料提供契約、共同研究契約、共同出願契約、オプション契約、ライセンス契約など)を逐次、整備していく必要があると考えています。



▲ 立命館大学の技術発表風景